

# ZENFUREN

附属だより

http://www.zenfuren.org/

### 発行所

全国国立大学附属学校連盟  
全国国立大学附属学校PTA連合会  
〒105-0001 東京都港区虎ノ門  
1-2-29 虎ノ門産業ビル8F  
全附連事務局  
TEL:03-3591-2091  
FAX:03-3591-2092  
E-mail:jimukyoku@zenfuren.org  
印刷:芳武印刷株式会社



## 全附P連 平成28年度総会開催

お茶の水女子大学講堂  
6月4日(土)

### 平成27年度の年間活動報告

第64回全国国立大学附属学校PTA連合会総会が、平成28年6月4日にお茶の水女子大学講堂に於いて開催されました。総会では、平成27年度の年間活動が報告され、新理事・監事・評議員が選任されました。その模様を全国の会員の皆様にお伝え致します。

### 新理事・監事選任

今年、総会に先立ちセミナーが開催され、東京学芸大学松田恵示副学長から「子どもの貧困問題について」、文部科学省高等教育局大学振興課教員養成企画室柳澤好治室長から「附属

学校に期待すること」の講演が行われました。総会においては、ご来賓の財務省中川真審議官からご挨拶をいただいた後、全国8校園のPTA活動表彰があり、平成27年度主要事業実施報告、各委員会活動報告が行われ、決算、会則変更、次年度理事・監事が審議、承認されました。

続いて、平成28年度新理事・監事による第一回理事會を開催。井上新会長が選出され平成28年度の活動方針、事業計画、予算についての説明がありました。質疑応答の後、盛大な拍手で可決され、いよいよ新年度のスタートが切られました。(副会長 田中米育)

### 新会長に井上恒治氏(鹿児島中)

#### 主 注 記 事

- 財政教育プログラム……………2
- 貧困対策検討委員会……………3
- 各学校の特色ある取り組み……………4・5
- 宮崎大学教育学部附属学校園/大阪教育大学附属天王寺中学校/信州大学教育学部附属学校園/筑波大附属坂戸高等学校……………
- カンガルーシップ・全国大会案内……………8

附属OB訪問…6・7  
石破茂衆議院議員

## うるささと、人情味

平成27年4月に教員養成企画室長に就任し2年目です。全附連・全附P連の皆様には、すっかり「附属学校の課題をはっきり指摘する厳しい人物」という定評(?)をいただいております。学校に期待するが、これも、附属学校が世の中から十分に認識・評価されていない現状を改善しなければその存続すら危ういと最も強く感じるポストにいるからこそその心配の現れです。附属学校の教職員及びPTAの皆様とお会いするにつけ、皆様の情熱とご尽力には頭が下がります。このパワーを最も効率よく活用し、世の中から評価される成果につながるお手伝いをするのが私の任務だと思っております。口うるさい存在ですが、引き続きお付き合いのほど、よろしくお願ひします。



文部科学省  
高等教育局大学振興課  
教員養成企画室  
柳澤好治 室長



全国国立大学附属学校連盟  
理事長 首藤 敏元  
(埼玉大学教育学部附属中学校校長)

国立大学附属学校の財政難、国の教員養成機能強化に伴う附属学校教員の負担増など、私たちが取りまく状況はますます厳しくなっています。また、私たちは毎年のように地震や豪雨等の自然災害による甚大な人的、物的損失に遭遇しています。社会的にも自然的にも変化の激しい時代の中で、私たちは子どもを守り、育てていく必要があります。心理学では、困難で脅威的な状況にも関わらず、うまく適応する能力のことをレジリエンスと呼んでいます。その内容は「困難な状況に遭遇しても、感情を乱したり落ち込んだりせず、自分の感情や行動を制御し、相応な時間内に落ち着くことができる」とことであり、弾力性のある心、打たれ強い心、回復力のある心と定義されています。

## レジリエントな附属へ

レジリエンスの概念は人だけでなく、社会のあり方にも適用されています。「レジリエント社会」とは災害に強い社会(建築物、組織、住民)、被害を受けても回復の早い社会のことです。レジリエンスの高い人の特徴に「楽観的である」「人と支え合う関係をもっている」「困ったときはヘルプを出せる」「思考が柔軟である」があります。これらの要素はレジリエント社会にも当てはまると考えています。行政も住民も前向きな姿勢をもち、世代を超えた人々のネットワークと情報ネットワークがあり、地域に支え合いの関係性があり、変化に対応できる組織であれば、その社会はレジリエントであるといえます。



全国国立大学附属学校PTA連合会  
会長 井上 恒治  
(鹿児島大学教育学部附属中学校)

全国9地区の各附属学校園PTA会員の皆様におかれましては、日頃より国立大学附属学校PTA連合会(全附P連)の活動に對しましてご理解とご協力を賜り心より御礼申し上げます。私たち全附P連は、全国56の国立大学法人に設置された259校園の置かれている現状と求められる使命を十分に理解した上で、その絆を活かし、子どもたちの学習環境の充実と附属学校園の発展、ひいては日本の公教育の振興に寄

## 『チーム附属の底力』

与することを目的に全国国立大学附属学校連盟の先生方と連携し活動いたしております。昨今の国立大学再編・統合が議論される流れの中、今後附属学校園を取り巻く環境はさらに大きく変化すると考えられています。今こそ子どもたちの未来に向けて「チーム附属」の底力を発揮し、附属学校園の素晴らしき取り組みを広く発信するなど意欲的に活動して参りたいと考えております。会員の皆様におかれましては、今後とも全附P連の活動にご注目いただき、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



# 財政教育プログラム

全附連（学校連盟、PTA連合会）では、かねてより『全附連は公教育を考えます』をスローガンに掲げ、全国のそれぞれの国立大学附属学校が教育を通じて、子どもたちの幸せとこの国の未来のために、その社会的使命を果たすべく先進的かつ公共的な教育の研究と実践をおこなうことをサポートしてきました。

この度、その一環として財務省と連携し、全面的な協力を得て財務省および全国の財務局、財務事務所の職員による「財政教育」を全国の附属学校で実施できることとなりました。

子どもたちに対するニュートラルな主権者教育の一環として、これまでの「租税教育」とは別視点の「財政教育」を新たに実施し、国の財政から、この国のあり方について広く子どもたちに学び、興味を持ってもらい、自分たちの国の未来について考え判断できる子どもたちを育成しようという目的のもと、昨年度より研究と検討を重ね、今年度より「財政教育プログラム」として、正式に全国の附属学校に展開し始めています。

この「財政教育」は、次世代の豊かな日本を形成する上で、重要な公教育の使命であると考えことから、各附属学校を通じて、それぞれの地域社会に根付かせ、同時に附属学校の付加価値を更に高めていきたいと考えています。

（専務理事 呉本啓郎）

## ▼全附連の取り組み



財政教育プログラム研究授業実施校

大阪教育大学附属平野小学校、奈良教育大学附属中等教育学校(前期)、大阪教育大学附属平野中学校、北海道教育大学附属札幌中学校、香川大学教育学部附属坂出中学校、広島大学附属三原中学校、宮崎大学教育学部附属中学校、奈良女子大学附属中等教育学校(後期)、熊本大学教育学部附属小学校、和歌山大学教育学部附属中学校、静岡大学教育学部附属浜松中学校、鳴門教育大学附属中学校、神戸大学附属中等教育学校(後期) 【開催順】

平成28年6月20日、神戸大学附属中等教育学校で中山光輝財務省主計局調査課長を特別講師にお迎えし、中等4年生37名を対象に、日本の財政を考える授業が行なわれました。

最初に財政とはどういうことか動画を視聴し、国の歳入と歳入について大まかに理解しました。その後、5つの班に分かれ「社会保障の受益と負担のバランス」をテーマにグループワーク及びアクティブラーニング形式で行ないました。年金、生活保護、介護、医療費などを削減した



## 「財政教育プログラム」授業を受けて

みを伴う改革をしないと国の借金を返していくことができない！」と真剣に話し合う若きリーダー達。財務省関係者、PTA関係者と大勢の大人、そして5社のマスコミ陣営の前でも動じず、意見交換や発表をしている姿がたくましく見え印象的でした。

（神戸小 寺畑俊雄）

班。この発言に若者にとっては住みよいが、高齢者の理解が得られるのかという疑問。消費税10%が先送りされ、いまだ国民の理解も不十分な中、思い切った12%に引き上げる改革をし

た班。又、「ライフレイン税」という新しい税を導入し、税金を上げようという班もあり、20年後に年金を受け取る世代の私には、その発想に驚くと共に恐ろしささえ感じました。しかし、そこには「痛

## 神戸大学附属中等教育学校

好評な授業成果を受け、浜松中学校が学長裁量予算で進めるトップガンプロジェクト（夢・志を持って世界で活躍できる人間育成を浜松で行う）と東海財務局様との連携授業構想も進むなど、新たなステージへの展開を見せております。

（副会長 田中米育）

「子どものうちから、日々の財政をきちんと理解することは重要ではないか」、「財政教育プログラム」の原点は、P連役員さんが提

現在、財務省・財務局（財務事務所）では、全附連と連携を図りつつ、まずは日本

## 静岡大学教育学部附属浜松中学校



## 生徒・保護者・実習生 一体となつての授業

平成28年5月26日（木）、浜松中学校3年生120名を対象に、次のような特徴ある財政教育プログラム授業が行われました。

①授業を120名同時に行わず、60人1講座として、1日2講座を開催しました。

②授業を保護者、教育実習生、市教育委員会、近隣公立学校関係者も参加。子どもたちへのアドバイスにも積極的に関わってもらいました。

③東海財務局様のご好意により、質問回答が即座に集計される最新のタブレットを使用し授業を進めました。

④体育館での授業でした



が、床座りではなく、4人のチームごとにテーブルを用意。着座にて授業が進められました。

⑤各チームごとに東海財務局職員を1名配置頂き、質問回答などの対応に当たってもらいました。

また、財政に対して、事前に社会科担当教諭が生徒たちの関心を高めていたこともあり、参加全チームが予算発表をしたという手を挙

げるなど、非常に盛り上がりを見せた授業となりました。

授業後の生徒アンケートにおいても、今後いろいろな場面で財政の在り方を考えていきたいとの感想が多く寄せられ、財務局の方々も多くの時間と要望も数多くありました。

## 輝く瞳に魅せられて 特別授業の現場



の財政に興味を持ってもらうこと、課題を「自分事化」で捉えてもらうこと、そして、タブレット端末の活用などにより、子どもたちが主体的に取組む「アクティブラーニング」を方針に掲げ、このプログラムに取り組んでおります。小・中・高校、これまで13回の実績を積み重ねて参りました。

私自身現場を訪れ、特別授業での子どもたちの瞳の輝きに、すっかり魅了されてしまった一人です。「子どもたちの成長過程に必要とされるのであれば、望外の喜びとするところ」、携わる全職員、共通した熱い念いで取組んでおります。

（財務省 大臣官房 地方課 若尾 仁 課長補佐）

※肩書きは本年6月末日現在

「子どものうちから、日々の財政をきちんと理解することは重要ではないか」、「財政教育プログラム」の原点は、P連役員さんが提



# 貧困対策検討委員会

2012年の国民生活基礎調査で平均的な所得の半分以下の世帯で暮らす18歳未満の子どもの割合「子どもの貧困率」が16.3%となり、日本の子どもの6人に1人は貧困の中にあることがわかっております。この子どもの貧困問題は家庭も子どもも「知られたくない状況」となりがちで特に附属学校においては、貧困というキーワードはPTAを形成する保護者も教員もあまり実感としてなじまず実態把握がかなり難しい面があると思われまます。ただ附属学校においても実はこの「貧困」を抱える家庭や子どもが存在し社会の縮図であることがわかってきました。また、その割合は相対的には低い割合であったとしても附属学校に通っているがために義務教育でありながら各区市町村からの各種の支援が受けられないという状況が地域によっては存在し、やはり附属学校に通う子どもたちの貧困問題は今後学校運営にも影響を及ぼす可能性を秘めており、早急に対策・援助する体制が必要であり大学、学校、PTAと教育後援会の協働組織による新たな枠組構築を踏まえたさまざまな観点から取り組む必要があると思われまます。

(顧問 岡山和広)

▼全附属の取り組み

## 日本教育新聞

平成27年4月27日号  
1面に掲載



平成27年4月27日付け日本教育新聞に、この専門委員会の取り組み附属の子どもたちの貧困問題に関する活動がトップ紙面で報じられました。この記事を契機に、文科省を仲介して東京学芸大学児童・生徒支援連携センター(CCS)と互いに情報交換を行うこととなり、現在の道筋が構築されました。その後10月に開催されたPTA研修会でのオープニングセミナーや教育後援会会長会等の取材によって、平成27年10月26日付けで転換期の「国立大附属校像」を探るという見出しで附属の中の貧困問題に焦点をあてた内容の報道がなされ、この問題解決に向かう活動の重要性が更に求められてきました。

(顧問 岡山和広)

## 東京学芸大学

今回このような状況の中、東京学芸大学が平成27年度の文部科学省特別経費に基づき「附属学校と協働した教員養成系大学による経済的に困難な家庭状況にある児童生徒へのパッケージ型支援に関する調査研究プロジェクト」CCSSより現状把握のための共同調査の提案があり、まず7月23日(木)にCCSSフォーラムにゲストプレゼンターとしてお招きいただきました。その後連盟とCCSS合同で実施することとで合意し、文科省の支援も得ながらアンケートをネット配信し集計を実施いたしました。10月の全国大会にて中間報告がなされましたが、後にCCSSによる結果報告がまとまり、連盟役員会にて報告・協議を行った上で、3月22日CCSSの成果報告会に臨みました。終盤のパネルディスカッションには、首藤理事長と加々見会長と私がパネリストとして参加し、貧困の現状の再確認とその緊急性を訴えました。

(顧問 岡山和広)

日本教育新聞 平成27年(2015年)4月27日(月曜日)

## 国立大附属学校 貧困対策へ動く

PTA連合会 土曜活動も支援

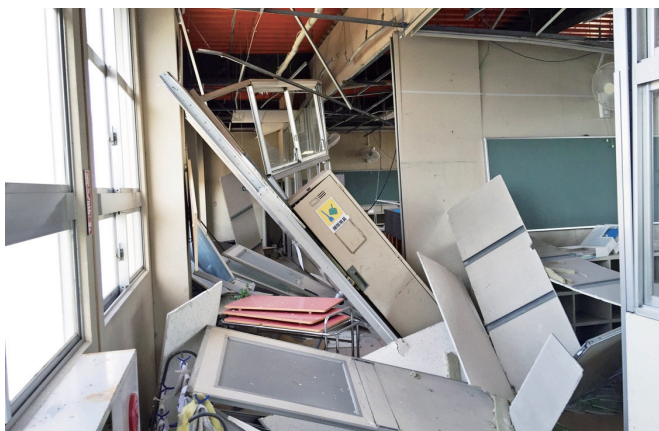
### 中退や生活保護 実態把握に着手

附属学校は、経済的に困難な家庭状況にある児童生徒への支援を目的として、PTA連合会を中心に、土曜活動や生活保護申請のサポートなどに取り組んでいます。また、文科省モデル校として、生活保護申請のサポートや、生活保護受給者の生活支援などに取り組んでいます。

### 文科省モデル校 学生が放課後支援

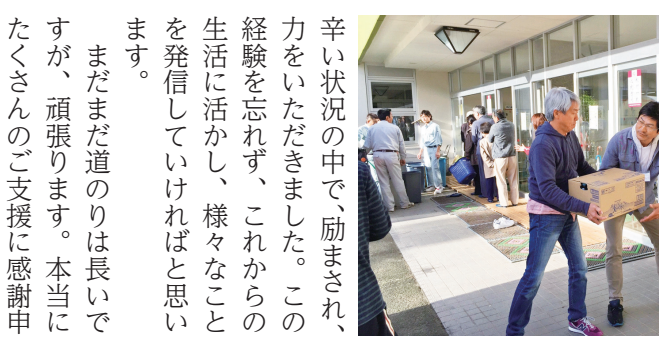
附属学校は、文科省モデル校として、生活保護申請のサポートや、生活保護受給者の生活支援などに取り組んでいます。

# 平成28年熊本地震



月。たくさんのお出でと伝統を築き上げた校舎も、天井は落ち、壁は倒れ、至る所にヒビが入りました。日常が一瞬にして消え、それがどれだけの有難いことだったのかと感じさせられる中で、蛇口から水が出ただけで喜び、温かい食べ物を食べられる幸せ、みんなが助け合う姿。本当に感謝と感動の余震の続く中、5月9日、

10日に四校舎は再開しましたが、子どもたちは元気な姿と笑顔を見せてくれて、まるで白黒のようだった校舎に、一気に色が入ったような感じがしました。一日も早く、子どもたちの心からの笑顔を取り戻し、健やかな生活を送れるよう前に進みます。



辛い状況の中で、励まされ、力をいただきました。この経験を忘れず、これからの生活に活かし、様々なことを発信していければと思います。

まだまだ道のりは長いですが、頑張ります。本当にありがとうございます。感謝申し上げます。

(熊本小 原田佳英)

## 熊本地震の募金活動

熊本地震で被災された熊本大学附属学校園へ、全国より多くの温かいご支援を賜り誠にありがとうございます。事務局には毎日何百通もの励ましの声、こえ、支援メッセージが届けられ、熊本の子どもたちの方の心温まるご支援に心

より感謝申し上げます。地震発生直後、熊本大学附属学校園の被災状況が思った以上に深刻であることが判明し、全附属としての支援活動をスタートすることにしました。事務局には毎日何百通もの励ましの声、こえ、支援メッセージが届けられ、熊本の子どもたちの方の心温まるご支援に心

## 早期復旧目指して…子どものケアも

6月27日現在で総額51、254、281円(6・4PTA連合会)のお礼の手紙をいただきましたことをご報告いたします。

(事務局 田中一晃)

## 熊本地震 一日も早い復旧復興を

亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げますと共に、被災された皆様にご心よりお見舞い申し上げます。一日も早い被災地の復旧を願って止みません。

## 前号(第106号)のお詫びと訂正

5面の「絵画コンクール2015」のわたしのこころの宝もの入賞作品の中で、ピリカ賞を受賞された「宮城教育幼 梅田乙杜」さんの作品と「富山幼 梅田太朗」さんの作品を入れ替えて掲載してしまいました。ご両名をはじめ、保護者や関係者の皆様にご迷惑をおかけしましたことを謹んでお詫び申し上げます。

(前広報委員長 高野一郎)





土曜講座「教室で哲学してみる」

宮崎大学教育学部附属学校園は、①校長・教頭のリーダーシップ機能の強化、②中期目標・計画に係る学校園の管理運営の効率化、③問題事態への即応化、④公立学校との役職名・職務内容のずれの解消を目的として、平成二十六年より運営体制を再構築した。

具体的には、附属学校園校長の教授兼任から、附属学校園統括長（教授兼任・副学部長職相当）を配置し、附属学校園長・附属小中教頭は県との交流人事とした。これに伴い、副校長・副園長・学内教頭は廃止した。ただし、幼稚園は学内教頭を新設した。また、小中学校においては主幹教諭の配置を可能とした。

運営体制の再構築に当たり、統括長の配置と三校園長打合せ会議等の定期的開催により運営を強化している。

附属三校園を統括する統括長は以下の役割やコーディネート等を行う。

- 附属三校園を統括し、つなぐ。

## 宮崎大学教育学部附属学校園

### 地域住民との意見交換会



## 今後の附属学校園運営の在り方

- 三附属学校園各行事や公開研究会、教育実習等への積極的参加
- 附属入試や交流人事等に係る基本的な考え方の共有
- 幼小中一貫教育に係る研究の進め方等についての指導的役割
- 附属学校園内の懸案事項や課題等発生時に学部等との連絡調整助言
- 校園長最終判断に係る助言等

学部と附属学校園の信頼関係構築に欠かせない重要な役割を担う。

三校園長打合せ連絡会議は、原則毎月1回、統括長室（附属小）で開催する。出席者は、統括長、幼稚園長、小学校長、中学校長であり、必要に応じて教頭等も出席する。概ね夕方五〜六時より開始され、約二時間程度を要している。協議された内容例は、生徒指導等状況、附属学校園を通じた研究、中期目標・計画、附属学校園入試、交流人事、教育学部へ

の改称、県外視察、第三期中期計画案、カウンセラー派遣体制等である。

附属学校園の地域連携等について、主に中学校の事例を紹介したい。

公開研究会の開催にあたり、平成二十五年より宮崎市内の公立中学校や県立中学校、県立特別支援学校の教諭等を研究協力者として依頼し、今年度も継続している。昨年度、公開研究会は半日の二日開催（一日あたり五教科）した。県・地区教育研究会部会と公開を兼ねる教科や、公開研究会の成果を県内教科研究会で活用している教科が約半数ある。

また、本校周辺地域とのつながりを確保するため、十一月のオープンスクールに自治会役員さんや近隣住民、学校評議員等をご招待している。昨年度は、全学級の授業参観をしていたが、次に附属小中学校共に宮崎市の災害時避難施設に指定されたのを受けて、避難時の対応施設の確認と施設機能の妥当性について意見を頂戴した。

最後に、地域住民と新旧生徒会役員との意見交換会を実施し、地域住民より「自転車のマナーの改善を心がけてほしい」「地域の同級生との交流や地域の方への挨拶が大切」「今のうちに地域とつながりをもっておくと、どこでも通用する」等の意見が出された。

附属小中学校では、平成二十六年より「宮大附属土曜講座」を実施している。講師は学部の先生方で、附属小中学校PTAと同教育後援会の主催である。その一部を紹介したい。

講座「教室で哲学してみる」では、一年生が二十九人参加した。話し合いの末、最終的に決まったテーマは「大

人とは何か」。色々な意見が出され、「子どもは未熟だ」「大人とは、経験の差がある」「でも高齢者は、体が衰えてきているから経験はじやまになるのでは？」

「子どもが事故に遭った時、大人はどうすればいいかわかっていない」「大人は経験があることでかえって、気を緩めることになるのでは？」

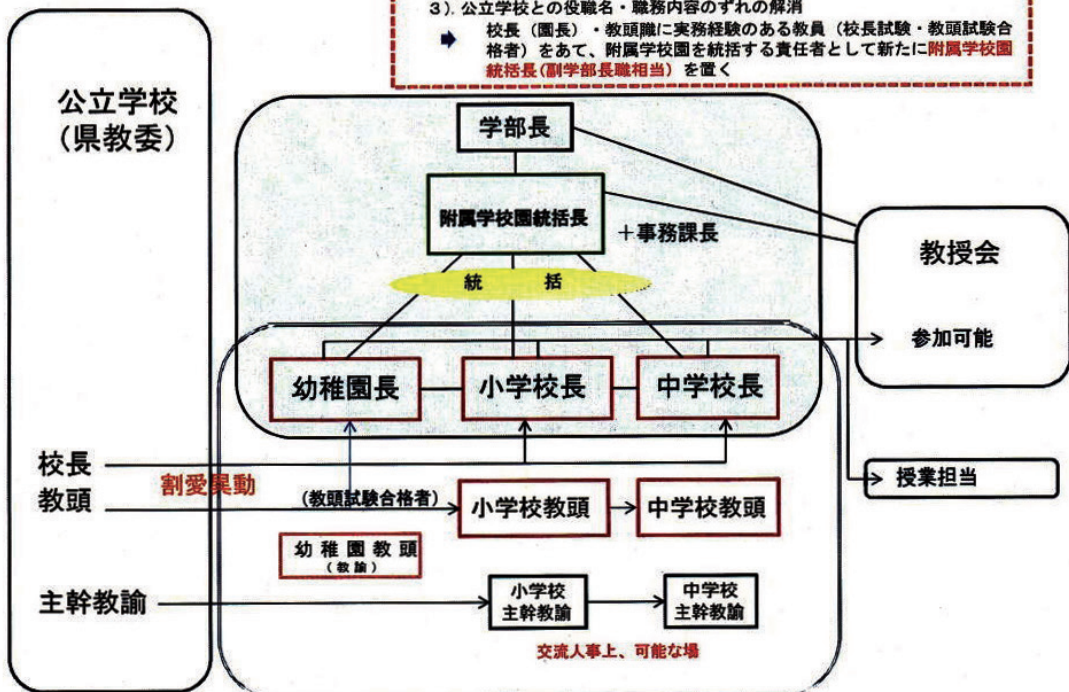
「先生が子どもだったら、教えることが減るから大人は必要だ」「先生が子どもだと、生徒はやりにくい。大人の方がものを動かすことができる」「信頼されているかどうかだろう」等。

本講座を通して、哲学に対する見方が見直され、より身近な学問であることに気付く良い機会となった。

附属学校園統括長を中心とした運営体制の再構築は、学部と附属学校園の連携強化や地域への貢献をより強固にできる試みであると言えよう。

## 各学校の特色ある取り組み

### 附属学校園の運営体制 H26. 4. 1(実施)



**<改正の要点>**

- 1) 校長・教頭のリーダーシップ機能の強化
- 2) 学校園の管理運営の効率化、及び、問題事態への即応化
- 3) 公立学校との役職名・職務内容のずれの解消

★ 校長（園長）・教頭に実務経験のある教員（校長試験・教頭試験合格者）を、附属学校園を統括する責任者として新たに附属学校園統括長（副学部長職相当）を置く

附属中学校長 安藤 真二



「大学で学ぼう」添田学部長講義



# 大阪教育大学附属天王寺中学校

自由研究は本校の特色ある取り組みの一つである。「総合的な学習」の時間に、生徒全員が取り組み、素朴な疑問や興味関心から生まれる創造的な学習である。課題設定、情報収集、結果の考察、発表を通して、観察力、分析力、表現力を身につける。例年、夏休み明けにお互いの成果を発表し合い、優秀作品はまよめ冊子に掲載されたり、コンクールに出展されたりする。また、身近な題材から、テーマを見つけ、自分の意見や考えを英語で発表する英語弁論大会も特色ある教科の行事で、コミュニケーション能力を高めることを目的としている。

## 自由研究と英語弁論大会

毎年、弁論大会の代表は高円宮杯英語弁論大会の予選に出場する。これらに熱心に取り組んだ生徒自身の声を紹介したい。「附中は、新たなフィールドに出会える場所です。行事、生徒会、部活動など、様々な場面で未知のフィールドが待っています。私が出会ったフィールドの中で、最も印象深いものは、自由研究と高円宮杯英語弁論大会です。私は三年間を通して、中世ヨーロッパに関する研究に取り組んできましたが、これらの研究は私の将来の選択肢を大きく広げてくれました。また、大きな経験となりました。高円宮杯では、先生方や家族を始め、多くの方々に支えて頂きました。私のスピーチは、国籍法についてだったので、情報の正確さと、主張の確かさが求められるため、原稿作成に大変苦労しました。長い道のりの末に、全国大会九位環境・社会特別賞を頂いたときには、自分の主張が認められた喜びをひしひしと実感しました。自分だけのフィールドは、探さなければ見つけませんが、決して難しいことではありません。多くのフィールドに出会い、切り開くことができた附中に感謝しています。」

校長 赤松 喜久



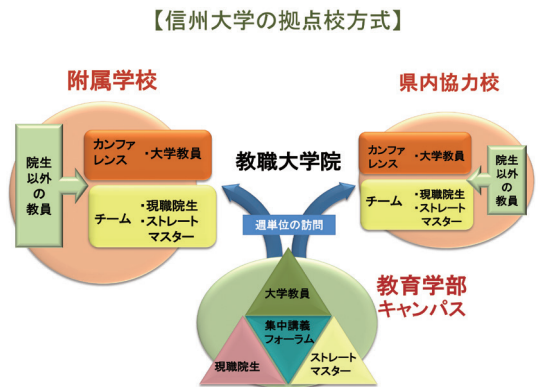
附属天王寺中・高正門



附属天王寺中学校学びのもり

# 各学校の特色ある取り組み

## 信州大学教職大学院拠点校方式概要



信州大学教育学部では本年度より教職大学院が開設されました。この大学院は既に福井大学等を取り組まれている拠点校方式を取り入れ、附属学校園（六校園）がその中心拠点となったことは大きな特色と言えます。本附属学校園は、創設以来、長野県の教育界を担うリーダーを育成する研修機関として、重要な役割を果たしてきました。しかし、これまで県と附属との関係に比べると、大学と附属との関係は、決して密接とは言えない状況が過去にありました。また六校園もそれぞれに独立した運営がなされてきました。この点で、近年大きな変化が見られます。各校園の研究推進にかかわって、大学の先生方が共同研究者として授業づくりにかかわる姿は日常的になり、また附属学校間も地区校種を超えて研究会の乗り入れ等、研究風土の

## 教職大学院の拠点と連携

共有化が図られるようになってきました。更には公開以外にも地域の先生方が年間にわたって研究会に参加する等、地域の研究タームにも強化されてきました。このように、今回の大学院の拠点化に至るまでには、大学も附属も更には県下の先生方も同じ岸に立った一体改革を推進することなくしてはできなかったように思われます。この三月末転任された先生が、「本当は四月からこの学校で勤務したいんです。それは私ばかりでなくこの学校にいるどの先生も思っています」と語った言葉が全てを語っているように思います。そうした附属も大学も超えて、教員一人一人がつながり意思ある組織として人格化されていく。それなくして連携も改革も語ることとはできない。そう思うのです。

(H27) 副校長 畔上 一康

## 信州大学教育学部附属学校園



大学・附属・地域教員参加による教材研究会 (図工)

# 筑波大附属坂戸高等学校

本校は、2014年度に開始されたSGH事業の初年度指定校になった。「先進的な総合学科を活かした持続可能なアセスン社会を創るグローバル人材の育成」を研究開発構想に、「多様性の中の統一」を国是とするインドネシアからSDGs時代に世界と日本が学ぶこと、先進国と途上国が普遍的に協働し実践する国連の持続可能な開発目標(SDGs)を達成するために高校生だからできる課題に取り組む」を課題研究テーマとしている。これに沿った海外調査を含む新たな授業開発や、入試改革を進めてきた。

## アセアン諸国を中心としたSGHの取り組み

その成果が既に現れ始めている。2015年11月には筑波大学東京キャンパスにて「第4回高校生国際ESDシンポジウム2015@Tokyo」を開催した。タイ、フィリピン、インドネシアから4つの高校を招待し、これに本校も加わって、Food Loss and Food Wasteをテーマに活発な報告と議論が展開された。全国11のSGH指定校から約100名の生徒と教員も参加された。これは「第1回全国SGH高校生徒成果発表会2015@Tokyo」も兼ねており、多くの希望者がポスター報告をして、たいへん盛況であった。2016年2月の「第2回SGH研究大会」には、インドネシア政府環境林業省附属高等学校8名の生徒たちの参加も得て、充実した大会になった。そうした中で印象深いのが、本校生徒の成長である。国際的活動が活発になるに従い、生徒たちにとってホームステイをし、ホストファミリーになってきたことが、重要な経験となったようだ。生活レベルで異なる文化を経験できたからである。上記の催し物での生徒の活躍は見事であったし、来校した東南アジア諸国の生徒たちとの自然体での交流の様子を見ると、生徒たちには国境の枠を越えて活躍できる土台が作られたと実感する。

校長 加藤 衛拓



第4回高校生国際ESDシンポジウム



第19回総合学科・第2回SGH研究大会



# 『自ら考える』

鳥取大学教育学部附属小中学校のOBであり、農林水産大臣、防衛大臣や、自民党政調会長、幹事長等要職を歴任され、現在は、内閣府特命担当大臣（国家戦略特別区域）、地方創生担当大臣としてご活躍されている、石破 茂さんを訪問し、お話を伺いました。



## ……こんな日本に

人のふるさとですが、鳥取県には鳥取県の色々な歴史があります。戦国時代に、鳥取の人は、何を考へたように行動したか。江戸時代や明治維新の時、何を考へたように行動したか、日本全体の歴史の中で我がふるさとと先輩たちは何をしたのだらうという教育、これは大事なことだと思っております。大東亜戦争の時も、それぞれの県から立派な軍人さんが出ています。愛国史観的な教育をしろと言っているわけではありません。いろいろなところから色々な人が出て歴史を作っているということ踏まえて、教科書に出てくる偉い人以外のことも教えてもらえるとうれしいと思っております。

高野：全国10万人の現役附属生に、どんな事を期待されますか？

石破：最近、修学旅行が早まって、2月の今頃、中学2年生が修学旅行に来るようになってきました。前は、年度が替わった4月、5月が多かったですが、中学生が国会に社会見学で来られたときには、可能な限り、私が自分でご挨拶するようにしています。これから先、日本では急激に人口が減ります。いま1億2700万人で、このまあいくと2000年たつと1391万人に、3000年たつと423万人になります。たつた2000年で10分の1、3000年で30分の1になります。人口が減って半分になると、国債残高の1人あたりの負担も倍になります。「シルバー民主主義だますか？」として、保護者、学校、教職員へのメッセージをお願いします。

るだらう。だけど、正しいことを言うときは、人を傷つけるのだということを忘れるな。」と竹下先生に言われました。他にも多くの方々にお世話になりましたが、閣僚としてお世話したという意味では、今の安倍総理の他に、小泉純一郎先生、福田康夫先生、麻生太郎先生です。

高野：現在、全附属と全附P連は、財務省と連携し、全国の附属学校において国の財政教育プログラムを進めています。今後、子どもたちに学んで欲しい、または必要な教育とはどんな事でしょうか？

石破：例えば日本の財政について考えてもらうということとは、とてもいいことだと思います。世の中には、色々な考え方があります。ある考え方があり、全く違う考え方もある中で、「君たちはどう思う？」という教育をやっていた方がいいと思います。政治的な話を持ち込んではいけないということです。教育的側が偏ることがなければいいのではな

## 上世代にメッセージ発信して

### ●後輩のみなさんに

いかと私は思うのです。例えば、去年は平和安全法制の話が世間でも話題になりましたよね。我々政府与党は必要だと思って提示している、しかし反対している人はこういう理由で反対している。君たちはどちらだと思っか、という、自分で考えることを促す教育が大事ではないかと思えます。特に歴史や社会科学分野でそういう教育をして欲しいと思います。今、私が大臣を務めている地方創生の観点から言えば、例えば長野県では、非常に分かりやすい、子ども向けに作った長野県の地方創生政策のパンフレットがあります。このような、自分の住んでいる市町村や都道府県の色々な指標をきちんと理解して、地域から日本を語る教育というのをもっと欲しいと思います。例えば高知県は全国的にも名前を知られている多くの偉

附属に限ったことではないかもしれませんが、当時は先生の日曜日の宿直があつて、「この日とこの日が宿直だから、分からないことがあれば、聞きに来なさい。」と言ってくださった先生もいました。中学2年の頃だったと思いますが「二次関数が全然分からなくて、先生の言葉を真に受けて聞きに行ったら、懇切丁寧に教えていただきました。そのときの嬉しさは、今も忘れていません。他の学校に行つたことがないから分からないけれど、小学校、中学校の先生方は、ありがたい先生ばかりだったと思います。附属ならではの自由な空気があつたと思いますし、教育実習の先生方も、知識や経験を積んで来られたと思います。教育実習の時に来られた先生も、今はもうほとんど退官していらつしやると思いますが、地元に戻ると、「石破君を小学校1年の時に教えてあげたけど、覚えてる？」と言われることがあり、とても懐かしく思い出します。



### ●石破 茂 地方創生担当大臣 プロフィール●

昭和32年、鳥取県八頭郡八頭町郡家出身。慶應義塾大学法学部法律学科卒業。三井銀行（三井住友銀行）を経て、昭和61年7月、旧鳥取県全県区より全国最年少議員として衆議院議員初当選、以来10期連続当選。  
・平成20年 農林水産大臣  
・平成21年 自由民主党 政務調査会長  
・平成24年 自由民主党 幹事長  
・平成26年 国務大臣地方創生・国家戦略特別区域担当（現職）

# 『教育』が大切

石破 茂さん (衆議院議員)  
(鳥取大学教育学部附属小中学校卒)

## OB訪問 第7回

石破：「実験校であるがゆえなのか非常にユニークな、おもしろい教育を受けたと思います。附属小学校の算数では、「集合の理論」をすでに昭和40年代の始めに教えていましたし、つるかめ算とか四則応用問題などが、授業が終わると黒板に1日2題出題されて、それが解けるまで帰れない、ということもありました。小学校5、6年はそんなことばかりやっていて、すごく勉強になりました。あと、音楽の先生ではなく国語の先生が、アコーディオンを見事に弾きこなして、「楠木正成の歌」や「元寇の歌」を歌ってくださったんです。これも戦前の歌ですよ。今でも歌えます。これも附属小でなければ、やらなかったことだと思います。また、毎日、日記を書けと言われてましたが、その日記には、必ず先生が40人の生徒全員にコメントを書いて返してくれていました。中学に上がった頃、誰かがいたずらした罰として、雪が降る中、クラス全員裸足で校庭を10周走らされたこともありましたし、夏には臨海学校が始まるまでに泳げるようになれと言われて、何メートル泳げるかで級を決めていました。すごく厳しい指導もありましたね。これは

## 附属は実験場



高野：今、附属学校での生活を振り返って、石破大臣にとって、附属ならではの良さとは何だったか教えてください。

高野：石破大臣が政治家を志した理由や、尊敬する政治家を教えてください。

## 忘れられないユニークな授業

●附属学校の思い出●  
是非もありません。あくまで尊敬をこめて申し上げますが、田中角栄先生は神であつて人ではない。大魔神です。父は、建設官僚の時から田中先生に心酔していました。「田中先生の親切は普通ではない。あんなに親切な人は世の中にいない」と父がよく言っていました。次にお世話になったのは渡辺美智雄先生でした。渡辺美智雄先生には、2つのことを言われました。「政治家の仕事は、勇気と真心をもって真実を語ることに。真実を見つけないのは大変。それを語るには勇気がいる。それを分かってもらうには真心がいる。」と教わりました。もう一つは、「おまえたちは、何のために政治家になったのか。金が欲しいのか。いい勲章が欲しいのか。先生、先生と呼ばれないのか。女にもたいたいのか。そんなやつは今すぐ辞めろ。政治家は、勇気と真心をもって真実を語る以外にはないんだ。」ということ。その次に竹下登先生。同じ山陰ということで目をかけて頂き、私が自民党を飛び出して、いろんな挫折をして再び自民党に戻ったとき、「お前は自分が言っていることがいつも正しいと思ってい



高野：石破大臣が、数ある学校の中から鳥取大学教育学部附属小中学校を志望された理由を教えてください。

高野：石破大臣が政治家を志した理由や、尊敬する政治家を教えてください。

いて、プライベートの時間がまるでない、こんな仕事はできないと思っていました。大学3年生の時、父は参議院議員でしたが、その父から政治家になる気はあるかって聞かれて、「全くない。」と答えたのを覚えています。父から、「そうだろうな。おまえみたいに、人がいい人間にとまる商売ではないだろうな。」と言われました。そんな私が何で政治家をやることになったかという、父が早くに亡くなって、葬儀委員長を田中角栄先生に務めて頂き、当時24歳だった私は葬儀が終わった後、目白の田中角栄先生のお宅にお礼に伺いました。そのときに「銀行やめて、葬儀に来ていただいた方、全員に名刺を持ってあいさつに行け。」と言われ、「24歳なので、まだ参議院には出られませんか？」と言いましたら、「馬鹿者。誰が参議院に出ろと言つた。衆議院だ、衆議院に出ろ。再来年には、衆参同日選挙がある。日本で起る全てのことは、霞ヶ関でも永田町でもないので白で決まるんだ。再来年の昭和58年には、おまえも26歳になっているだろう。立派に被選挙権はある。いかに、この目白で全てが決まるんだ。」と、田中角栄先生に言われたわけです。当時「閣將軍」と言われた絶頂期の田中角栄先生。こっちは24歳で銀行に入つて2年目です。それは





第6回全国大会

# 全附P連PTA研修会

## 第7回全国大会

日時 9月30日(金)～10月1日(土)

場所 ハイアットリージェンシー東京

「子どもたちに確かな未来を！～今すべきことを考える～」をスローガンに掲げ、第7回全国大会を開催いたします。講師には、昭和大学大学院准教授、院内学級担当でホスピタルクラウンの副島賢和氏、女優で戸板女子短期大学客員教授の菊池桃子氏、青山学院大学陸上競技部監督の原晋氏をお招きします。テーマ別分科会では、特別支援部会、教育後援会会長会の他、

校種を超えた3テーマを開催、その分野の専門講師を招き、参加者同士での議論も行います。附属学校や公教育の現状と未来に関するセミナーや、全国からの参加者同士の交流も行う予定です。これまでの実績やアンケートをもとに、「これぞ全国大会！」という魅力ある大会にしていきますので、多くの皆様のご参加を心よりお願い申し上げます。(研修委員長 三浦享)

第1日 9月30日(金)					第2日 10月1日(土)										
11:30	12:30	13:45	14:00	15:40	16:00	17:40	18:10	20:00	8:00	8:30	9:30	10:45	11:00	12:15	12:45
受付	オープニングセミナー	休憩	全体会・基調講演 副島賢和氏 (昭和大学病院内「さいかち学級」担当、ホスピタルクラウン)	休憩	テーマ別分科会 (3テーマと特別支援部会、教育後援会会長会)	休憩	情報交換会		地区会長会(一部)	受付	本講演1 菊池桃子氏 (女優、戸板女子短期大学客員教授)	休憩	本講演2 原晋氏 (青山学院大学陸上競技部監督)		閉会行事
＜パネル展示＞絵画コンクール入賞作品・特支記念品展示									＜パネル展示＞絵画コンクール入賞作品・特支記念品展示						

近年、子どもたちが学んだり遊んだりする生活環境は、年々複雑になってきております。事故や事件が日常的に起こり、いつどのようなことが附属の子どもたちにかかるとはわかりません。新聞等でも子どもたちが大きな事故に巻き込まれたり、人に危害を与えて大きな賠償が発生したりしております。全附P連では、附属のお子様を対象に、学校園内や登校時、帰宅後あるいは休日のケ

### カンガルー保険のご案内

財務



ネイバーサポートプロジェクト (香川大坂出小)



就労支援プロジェクト (北海道教育大特支)



共生プロジェクト (福岡教育大福岡小)



理解プロジェクト (長崎大特支)

ガ、特定感染症、疾病による入院など様々なニーズに対応できる「カンガルー保険」への加入をお願いいたします。国立大学附属学校園259校園、約9万人の子どもたちをベースに非常に有利な保険内容になっております。制度としては、学校単位での全員加入制度、個人単位での任意加入制度、2つの制度がありますので、ぜひご加入下さい。なお個人単位の任意加入制度は、附属以外の公私立学校に通学している18歳までの兄弟も加入できます(ただし附属に通学している兄弟の方がカンガルー保険に加入していることが必要)。よろしくお申し込み下さい。(財務委員長 大倉宏治)

たいの思いから既存の活動に新たに「就労支援活動助成金」を加えました。昨今、知的障がいを持たない軽度な発達障害の子どもたちがクローズアップされてきておりますが、通常学級における一斉教授、指導だけでは教育的ニーズが満たされなくなってくるのは必然であり、現在通常学級に6.7%(24年度文科省報告)は在籍するとされる軽度発達障がい・学習障がいの子どもたちに対する理解と支援が必要と考え、昨年度新たに「ネイバーサポート活動助成金」を立ち上げました。各申請校の活動の様子を全附属のホームページに掲載しております。ぜひご覧頂き、今年度の申請案内が現在各校園に配布されておりますので、魅力ある活動に役立てて頂きたいと思っております。(前特別支援委員長 渡辺優子)

カンガルーシップ活動助成金事業の基本理念は「校種を越えて子ども・教師・保護者が連携を持ち「理解」を基盤とし「共生」を育む活動」として行います。これには今後様々な環境の中で活躍していくであろう附属の子どもたちに、他者との違いを互いの個性と認識し、それを許容することにより共生社会を作り上げてほしいとの希望が込められており「理解プロジェクト」と「共生プロジェクト」の2つの助成金活動を推進して来ましたが、平成26年度には特別支援の子どもたちの就労を支援し

### カンガルーシップ 特別支援

先日、最接近した火星を大望遠鏡で見た。火星は約2年2か月に1回、地球に接近する。今までは、火星移住といえば、サイエンスフィクションの中の世界と思われていたが、近年、現実味を帯びてきた。オランダのNPO法人が、2025年に火星移住を実現する

### 編集後記

「マーズ・ワン」計画を発表した。技術的な問題のため、地球には帰ってこれない「片道切符」であるにもかかわらず、移住希望者は20万人を超えたという。ちなみに、リニア中央新幹線の品川、名古屋間が開通するのが2027年という。どちらとも早く実現することを期待したい。(前広報委員長 渡邊一正)

全国国立大学附属学校園の幼児・児童・生徒の保護者の皆様へ

この保険は全国国立大学附属学校PTA連合会の団体保険です。

ただ今募集中!

# カンガルー保険のご案内

(前子ども総合保険)

<p><b>任意加入制度</b></p> <p>24時間補償</p> <p>約50%割引</p> <p>24時間補償</p> <p>簡単・便利!</p>	<p><b>全員加入制度</b></p> <p>1 国児・児童・生徒、教職員の皆様のケガなどを補償する</p> <p>2 国児・児童・生徒、教職員の皆様が犯罪事故からお守りする</p> <p>3 PTA活動に参加中のご両親・教職員の皆様のケガや賠償事故を補償する</p>
--	---

**カンガルー保険・取扱代理店のお問合せ先**

【引受保険会社】(幹事保険会社) 東京海上日動火災保険株式会社  
(担当) 公務第二部文教公課室 〒102-8014 東京都千代田区三番町6-4 TEL:03-3515-4133 FAX:03-3515-4132 平成28年5月作成 16-T13350

【引受保険会社】損害保険ジャパン日本興亜株式会社  
団体・公務開発部 第三課 〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 TEL:03-3349-9588 FAX:03-6388-0162 ※損保ジャパンと日本興亜は、2014年9月1日に合併し、「損害保険ジャパン日本興亜株式会社」になりました。

《北海道・東北・関東・北信越・四国地区》

**株式会社 第一成和事務所**  
東京都中央区日本橋久松町11-6 ☎ 0120-100-492  
日本橋TSCビル 8F

《東海・近畿・中国・九州地区》

**海上商事 株式会社**  
東京都渋谷区代々木2-11-15 ☎ 0120-745-748  
新宿東京海上日動ビルディング